

がとう。客引きのお兄さんありがとう。キャバクラのお姉さんありがとう。ああ、僕たちは宇宙船地球号の一員なんだな…。囲碁の話を書石に、無理やり宇宙の話まで引っ張ってきました。下手を打ちましたね。今回のオチは坊やにはちょっと難しいかな。

## 4年次後期になって

黒崎 滋之 (4年次)

同窓会員のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。4年次の黒崎滋之です。

今年の夏は、全国的に豪雨や猛暑に悩まされ、連日気象に関するニュースがトップになるほどでした。

私が帰省していた東京も、例年以上に暑い夏でした。四方八方をアスファルトやらコンクリートやらに囲まれており、おまけに吹く風は熱風ばかりのため、太陽に照らされて生じた熱の逃げ場もなく、どの道も熱気が漂っていました。少し歩くだけで汗が噴き出てくるため、涼しさを求めてデパートやコンビニ、空調のある地下街などで寄り道しながら、東京の街を歩いていました。

8月末に沖縄へ戻ってきましたが、東京と比べると沖縄は随分と涼しく感じました。ただ、涼しいと言っても、やはり沖縄は沖縄。暑いことには変わりなく、木陰に入らなければ肌を刺すような日差しを避けることはできません。それでも、風があることがどれだけ気持ちのいいものか。沖縄の風、侮るべからず。

私は今年になって初めて、西日本医科学学生総合体育大会(西医体)に参加しました。以前所属していた大学でも対抗戦があったなと振り返りながら、大会当日まで可能な範囲で準備はしたものの、結果は散々なものでした。多くの競技において、二十代後半という時期ではアスリートのトータル・パフォーマンスがもっともいい状態であると耳にしていたのですが、ブランクを経てからの三十路目前というのはそれとは異なり、練習を重ねても競技能力は急には回復せず、年相応の身体能力を目の当たりにし、とても悔しく思いました。

ただ、競技を通して他校の医学生と交流を持てたことは、とても貴重な経験となりました。琉球大学は他大学と異なり、海によって隔られています。一番近い鹿児島大学でさえ、直線距離にしておよそ600 km。高校などの同級生に他校の医学部へ進学した友人がいない限り、彼ら彼女らと交流することは容易ではありません。そのため、西医体などのような数少ない機会をいかにして有効に活用するかが重要であることを、今沖縄で生活していて痛感しています。

8月下旬には国立がん研究センター中央病院にて一週間の実習に参加させていただきました。琉球大学へ編入する以前から「がん」について、特にその細胞生物学的な挙動に関心がありました。一方、外来診療や病棟診療など実際の治療現場、そして治験の現場についてはあまり知らなかったため、その現場を自分の目で見たく思い、国立がん研究センター中央病院の夏期実習プログラム内科コースに参加させていただきました。

それまでは将来のビジョンについて、「がん」という軸と「がんの根治とがん発生の抑制」という目標は決まっていたものの、それに対するアプローチがあやふやなままでした。しかしこの実習を通し、「がん診療の現場を見る」という目的だけでなく、自分自身の方向性、医療従事者として社会にどう向き合っていくかというビジョンも以前より確固たるものにな

りました。

さて、4年次生についてですが、9月より新しい臨床科目が始まり、また次々にやって来る試験に向けてそれぞれ頑張っているところです。さらに、来年2月に行われるCBTに向けても、みな頑張っているところです。

来年の春からは琉球大学医学部附属病院などでの病院実習が始まり、諸先輩方にお世話になる機会が今まで以上に多くなります。その際にはいろいろとご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、同窓会員のみなさま、そしてその御家族のみなさま、よい年末年始をお迎えください。



## 医者の卵の卵

砂川 惇司 (3年次)

気がつけば入学してから早いもので、3年次の後期を迎えています。学部教育では後期からは病理学各論が始まりました。その学ぶべき量が多いこと多いこと。皆圧倒され悲鳴をあげています(来週その試験なんです)。また、臨床科目が始まるという大きな変化がありました。どの授業も一つの疾患に着目しての勉強です。これまでの正常構造・機能を学んだ基礎医学の知識を脳内全回路を駆使して思い出し、どう人体に影響を与えているのか、毎回の授業が興味深く感じられます。

高学年での病棟実習に励む先輩が「医者の卵」とするなら、臨床科目を学び始めた私たちは「医者の卵の卵」なのでしょう。が、しかし、「卵の卵」から「卵」に進化するにも壁は高いようです。立ち足はだかる壁(試験)は…どうやら24もあるようです。なんてこった…。

サークル活動に関しては幹部学年となり、多くの友人が中心になって活動しています。幹部という名前通り、責任を持って楽しく励んでいるようです。卒業し社会人になれば大きな責任を負います。ましてや医者という命を預かる特殊な職柄では尚更のことです。サークル活動を通して得られる、円滑な対人関係や責任力といった「人間力」は必ず社会で役に立つはずです。

少し個人的な話で申し訳ないのですが、私は将来「家族の健康を守る」医者になりたいです。家族の健康を管理し、その上で患者さんと接したいのです。昨年同居する祖父が病に倒れた時、私は何もできませんでした。元気に畜産業を営んでいた祖父の落ち込んだ姿を見ると、悔しさがこみ上げてきました。今年の元旦、「あと4年待っててね。そのあとは私が見るから。」と、祖父に約束しました。その約束のためにも誠実に勉強していこうと思います。「誠実に真面目に生きなさい」と私の祖父母は道を示してくれます)卒業後多忙な毎日の中でも、友人、同僚、そして家族といった共に生活する人たちに、小さな気遣いができる人になれるといいなと思いま